

2023年度 日本工学院八王子専門学校	
ミュージックアーティスト科 サウンドクリエイターコース	
ベーシックレッスン2	
第4回	打楽器について（膜鳴楽器と体鳴楽器）
第5回	打楽器についてまとめ（ドラムの記譜法を学習、オーケストラのスコアでの打楽器記譜法）
第6回	民族的な楽器について（ヨーロッパ）
第7回	民族的な楽器について（アフリカ、中近東）
第8回	民族的な楽器について（アジア、オセアニア）
第9回	民族的な楽器について（北中南米）
第10回	民族的な楽器について（その他）
第11回	民族的な楽器についてまとめ
第12回	電子楽器について（種類、歴史）
第13回	電子楽器について（種類、音色）
第14回	電子楽器について（種類、音色）これまでのまとめと発表
第15回	後期のまとめと発表

2023年度 日本工学院八王子専門学校											
ミュージックアーティスト科 サウンドクリエイターコース											
ベーシックレッスン2											
対象	1年次	開講期	後期	区分	必	種別	実習	時間数	120	単位	4
担当教員	大野元毅・柿崎光			実務経験	有	職種	ミュージシャン				
授業概要											
主に録音について、波形編集について学び、最終的に年度末のコラージュ展への作品づくりのためのスキルを学習していきます。											
到達目標											
現代の音楽における録音の重要性や波形編集技術の応用を学び、年度末のコラージュ展においてアイデア溢れる作品を創り出すことができる。											
授業方法											
実際のマイクやラインでの録音を通し、レコーディングを行う。またレコーディングしたファイルにおけるエフェクト、編集・ミックス技術を学び、それを実践する。											
成績評価方法											
期末提出物60%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、授業内発表20%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、平常点20%(主体的に学習に取り組む態度を評価する)											
履修上の注意											
この科目は開講曜日により担当教員が異なります。専門学校は、社会人としての行動・あり方を学ぶ「職業訓練」の場であるという考え方から、他の授業・実習と同様、出席状況については厳しく評価する。また、授業中の態度（居眠り、私語など）にも厳しく対応する。卒業後の自分自身の生きる力を得るものであり、自分自身のこととして主体的な考え方をもち、積極的な姿勢で授業に参加してほしい。なお、授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。											
教科書教材											
適時、講師より教材を配布する。											
回数	授業計画										
第1回	ラインレベルとギター・ベースの出力、インピーダンスについて理解する。										
第2回	ライン録音の実践方法について理解する。										
第3回	ライン録音の実践方法についての応用を理解する。										

2023年度 日本工学院八王子専門学校	
ミュージックアーティスト科 サウンドクリエイターコース	
ベーシックレッスン2	
第4回	打楽器のレコーディングについて理解し、実践する。
第5回	ループサンプルの加工について理解する。
第6回	サンプラートラックについて理解し、活用する。
第7回	ミックスにおける様々なエフェクトについて学ぶ。(EQ、コンプ)
第8回	ミックスにおける様々なエフェクトについて学ぶ。(ディレイ、リバーブ)
第9回	ミックスにおける様々なエフェクトについて学ぶ。(モジュレーション)
第10回	プロの使う機材を用い、実践的なレコーディング方法を学ぶ。
第11回	コラージュ展への作品作りとアイデアを学び、実践する。(1)
第12回	コラージュ展への作品作りとアイデアを学び、実践する。(1)
第13回	コラージュ展への作品作りとアイデアを学び、実践する。(2)
第14回	コラージュ展への作品作りとアイデアを学び、実践する。(3)
第15回	提出物の授業内発表、後期のまとめ。

2023年度 日本工学院八王子専門学校											
ミュージックアーティスト科 サウンドクリエイターコース											
ベーシックレッスン2											
対象	1年次	開講期	後期	区分	必	種別	実習	時間数	120	単位	4
担当教員	郁川舞・加茂文吉			実務経験	有	職種	ミュージシャン・レコーディングエンジニア／シンガーソングライター／作曲家				
授業概要											
外部企業との連携を想定し、楽曲制作に必要なジャンルや楽器の和声や旋律、音作りを生徒が主体的に考え、不明点を生徒自身で模索し完成できるよう学習していきます。Project Based Learningを軸に、正解が与えられない課題や問題を解決するための思考法や、ユーザー視点に立ち製品としての楽曲をつくる技術の獲得を目指します。											
到達目標											
実社会とやりとりが発生するために、別途開催されているビジネス授業で学んだ知見を本授業内で活かしているか講師による確認を適時行う。そのうえで、外部コンテストの内容または外部からの依頼に基づくうえでの様々な音楽ジャンルを都度リサーチし、制作するテーマに基づくサウンドの方向性を再現できる技術を習得することを目標とする。											
授業方法											
実社会上の概念に触れるため、想定できないことがあることにも随時対応できるよう、回復可能な失敗の機会を得ることを恐れないマインドと技術手法を得る。回復可能な失敗についてその原因を探り、講師がメンターとなって実務経験者の観点から、技術手法に関する都度のアドバイス、または締切までに楽曲を仕上げるプレッシャーについてのメンタリングも実施し、授業内が新人作家によるプロダクション企業を想定し、各学生の状況に個別最適化された授業を実施する。											
成績評価方法											
提出物課題80%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)平常点20%(主体的に学習に取り組む態度を評価する)											
履修上の注意											
この科目は開講曜日により担当教員が異なります。専門学校は、社会人としての行動・あり方を学ぶ「職業訓練」の場であるという考え方から、他の授業・実習と同様、出席状況については厳しく評価する。また、授業中の態度(居眠り、私語など)にも厳しく対応する。卒業後の自分自身の生きる力を得るものであり、自分自身のこととして主体的な考え方を持ち、積極的な姿勢で授業に参加してほしい。なお、授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。教室使用後は使用した周辺の消毒清掃を各自行う。											
教科書教材											
適時、講師より教材を配布する。ヘッドホン、6.3mmステレオ標準変換アダプター、SSDやUSBメモリ等の記録媒体を持参すること。また自身のPCを持ち込むことも可。											
回数	授業計画										
第1回	テーマに沿った楽曲イメージを調査しまとめる。										
第2回	楽曲制作・グループワーク01：必要な楽器の選別やジャンル、リズムやテンポといった楽曲の大まかな雰囲気のリサーチし、制作する。										
第3回	楽曲制作・グループワーク02：大まかな楽曲の全体像、セクションをリサーチし、楽曲の骨組みを考える。										

2023年度 日本工学院八王子専門学校	
ミュージックアーティスト科 サウンドクリエイターコース	
ベーシックレッスン2	
第4回	楽曲制作・グループワーク03：リズムパート（ドラムやベース）パターンをリファレンスし、再現したりアレンジして各自の楽曲に反映させる。
第5回	楽曲制作・グループワーク04：曲の基本となるモチーフを考え、シンプルでわかりやすいフレーズを考える。音色も考慮する。
第6回	楽曲制作・グループワーク05：ウワモノの入力。楽曲のキーやコード進行を考え入力する。なお、各々の作曲方法により02～05は順不同となる。
第7回	楽曲制作06：制作を継続。全体のバランスを考えながら楽器の配置や演出を考える。
第8回	中間発表。この段階でラフなデモ音源が完成できるよう制作を進める。書き出し音量とファイル形式について。Google classroomに提出。
第9回	楽曲制作・グループワーク07：各楽器パートのブラッシュアップを行う。楽曲イメージに合わせた楽器の演奏方法を模索する。
第10回	楽曲制作・グループワーク08：制作を継続。各楽器のパンニングを理解し配置する。空間系エフェクトを使用し臨場感を表現する。
第11回	楽曲制作・グループワーク09：ミキシング。リズム隊の音量バランスを考える。リファレンス検索。／EQとは。またその使用法。
第12回	楽曲制作・グループワーク10：ミキシング。リズム隊に対するメインパートの音量バランスの調整
第13回	楽曲制作11：ミキシング。コンプレッサーの調整。
第14回	楽曲制作12：ミキシング。リファレンスと比較し最終工程を行う。
第15回	楽曲提出。授業内発表とプレゼンテーション、後期のまとめ。

2023年度 日本工学院八王子専門学校											
ミュージックアーティスト科 サウンドクリエイターコース											
ベーシックレッスン2											
対象	1年次	開講期	後期	区分	必	種別	実習	時間数	120	単位	4
担当教員	杉本 清隆			実務 経験	有	職種	ミュージシャン				
授業概要											
オーケストラで使われている各楽器の特性・奏法を理解し、最終的にDTMをベースとしたオーケストラ編成での編曲に活かせるようにする。またシンセサイザーの音色エディットを学び実践する事で、劇伴やゲーム音楽の作曲や編曲に活かし、より深い音楽上での表現力を身につける。既存曲やオリジナル曲をオーケストレーションの手法を用い仕上げていくスキルを身につけることを目的とする。											
到達目標											
サウンドロゴやBGM、効果音を制作し、映像作品やゲーム等にも有効な作品制作技術を習得する。クラシックだけではなく、Rock、Pops、R&B、EDM、民族音楽、Jazz等様々な音楽ジャンル、国内外の名アレンジャーのサウンドスタイルについての知識を習得する。オーケストレーションに必要な基礎的な読譜力、記譜力、各使用楽器 の音域や使用方法について学び、習得する。											
授業方法											
講師指定の楽曲を参考音源と楽譜をもとに様々なジャンルやアレンジャーのサウンドスタイルを分析する。同時に、ゲーム音楽、J-POP双方のオリジナル作品を作曲し、オーケストレーションの手法を用い仕上げていく。各種弦楽器、管楽器、打楽器以外にも、現代におけるシンセサイザーなどの編入楽器など、 各学生のオリジナリティある組み合わせにも柔軟に対応していくものとする。課題の定期的な試聴会と ディスカッションも行う。											
成績評価方法											
提出物課題80%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)平常点20%(主体的に学習に取り組む態度を評価する)											
履修上の注意											
この科目は開講曜日により担当教員が異なります。専門学校は、社会人としての行動・あり方を学ぶ「職業訓練」の場であるという考え方から、他の授業・実習と同様、出席状況については厳しく評価する。また、授業中の態度（居眠り、私語など）にも厳しく対応する。卒業後の自分自身の生きる力を得るものであり、自分自身のこととして主体的な考え方を持ち、積極的な姿勢で授業に参加してほしい。なお、授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。											
教科書教材											
教科書：オーケストレーション(宅美秀俊)・音楽理論ワークブック 毎回レジュメ・資料を配布する。参考書・参考資料等は、授業中に指示する。 各自、筆記用具やノートと共に持参すること。											
回数	授業計画										
第1回	アレンジの構想を組み立てることができる。										
第2回	テーマ部分にリハーモナイズを行い新たなコードを設定できる。										
第3回	室内オーケストラ+ピアノ編成のアレンジができる。その1										

2023年度 日本工学院八王子専門学校	
ミュージックアーティスト科 サウンドクリエイターコース	
ベーシックレッスン2	
第4回	室内オーケストラ+ピアノ編成のアレンジができる。その2
第5回	室内オーケストラ+ピアノ編成用のアレンジができる。その3
第6回	前奏と間奏部分のアレンジができる。
第7回	2コーラス目のアレンジができる。
第8回	後奏部分のアレンジができる。
第9回	カノン進行を4パートの弦楽器セクションに展開できる。
第10回	カノン進行を5パートの弦楽器セクションに展開できる。
第11回	カノン進行に木管楽器&金管楽器パートを追加できる。
第12回	カノン進行+後奏にトゥッティによるボレロ風アレンジを施す
第13回	自作曲または好きな既成曲のオーケストレーションができる。(1)
第14回	自作曲または好きな既成曲のオーケストレーションができる。(2)
第15回	全体のまとめ